

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193100419		
法人名	社会福祉法人 大悲会		
事業所名	認知症高齢者グループホーム 無憂苑		
所在地	上川郡比布町東町2丁目3-1		
自己評価作成日	平成22年11月9日	評価結果市町村受理日	平成22年12月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

本年度から運営推進会議委員に地元消防署署員を新たに委嘱し、2ヶ月に1回の会議で、より防災意識等を持ちながら運営に生かさせて頂いております。また、法人内の特養施設や保育園と、「七夕まつり」や「雪まつり」などと合同行事を行い、入所者や地域の方々に喜んで頂いています。その他、町内の「老人運動会」「文化祭」への見学や作品出展など積極的に参加し、地域の方々との交流が図れるように努めています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigooho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0193100419&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成22年 11月25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

『いちご』で有名な比布町の住宅街に、地域と共生している特別養護老人ホーム「あそか苑」があります。前法人理事長が「在宅サービスと特別養護老人ホームとの橋渡しができるサービスを作りたい」との思いに応え「グループホーム無憂苑」が建てられています。広大な敷地に落ち着いた平屋建ての趣きのある建物となっています。地域に密着している特養に併設していることから、見学者も多く、法人全体で雪まつりや盆踊り、花火大会、七夕まつり等、多彩な行事が行われ地域の方々との協力関係も築かれており、地域住民・家族・利用者・職員が一緒になって楽しんでいます。現在このグループホームは1ユニットのみが運営されていますが、地域の入居希望者も多く、2ユニット目の利用に向け検討中となっています。開設して3年が経過し、職員は利用者の尊厳を大切に、利用者本位の生活支援を基本に日々サービスの質の向上に努めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年度初めの職員全体会議で、ピハラ活動の理念である「生老病死」の7ヶ月実践を基本理念とし、それを基に「ゆっくり」「いっしょに」「たのしく」を念頭にした目標を大切にしている。	「ゆっくり」「いっしょに」「たのしく」と、優しく分かり易い理念が設立時に作られ、ホーム内に手作りの木板で掲示しています。職員はその理念を共有し実践に繋げています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的には散歩を兼ね、馴染みの商店・お寺へ出かけ、町内清掃等へは積極的に参加している。「七夕まつり」「敬老会」「雪まつり」などの行事には、地域の方々に参加してもらう。	地域との関係作りは積極的であり、広報誌回覧や町内行事の参加、行事への参加呼び掛け、敬老会・雪まつり・七夕まつりなど、ボランティアの協力を含めて構築しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元消防署から車椅子の操作方法等の研修依頼があり、苑内で研修を実施する。その時に、認知症の方の行動等について説明する。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は、2ヶ月に1回開催しているが、地元消防署員を新たに構成メンバーに加え、推進委員にプリンター設備視察や避難訓練の見学、普段の生活状況等に貴重な意見等いただく。	運営推進会議は定例開催とし、利用者・家族の他、地域包括支援センター、消防署が参加し、活動報告や意見交換が行われ、サービスの質向上に活かしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター長、町消防署員等が運営推進委員のメンバーのため、日常業務を通じ情報交換や連携を図っている。	月2回、町で開催される地域ケア会議に出席し、福祉関係者と情報交換を行っています。今年はホーム主催で、消防署による車いす移動や移乗等の研修を開催しています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会の委員に職員がメンバーとして、毎月、委員会で身体拘束をしないケア実践にむけ検討し、検討内容についてその都度全職員へ周知する。また、入所者の行動状態を常に把握し、日中の玄関等の施錠はしていない。	身体拘束防止のマニュアルを作成し、職員は正しい理解のもとでケアに取り組んでいます。玄関の施錠・車いすからの移乗・ベット周りの拘束もなく、特に言葉遣いについては、接遇やコミュニケーション作りに入力しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全体会議、勉強会等で話し合い、常にお互いに注意し合う。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員研修等で学ぶ機会を設けている。また、検討が必要なケースがあり、内容について具体的に話し合った。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に施設内容や施設利用料、体調変化時の連携体制等について説明をしている。また、入所前の見学や問い合わせ時には、家族等の不安や疑問などの相談に応じている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入所者の方々の日常生活状況や会話等、家族の来苑時など意見や要望等をお話いただけるように対応している。また、意見や要望等があれば、速やかに検討したり対応している。	家族とは信頼関係が築かれ、様々な場面で協力が得られています。家族会や面会来訪時に、家族から要望や意見が、言い易い雰囲気作りに努めています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員全体研修、勉強会等の他、月1回のケース会議等で職員間の意見交換をしている。	月1回の定例会議で、職員の意見や提案が出され、利用者の生活の質向上・ホームの運営に反映しています。法人本体と合同で各種委員会の設置もあり、ケアの向上に努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の日常の勤務状況や職場状況等について、日頃、職員と互いに確認している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量、能力を勘案し、法人内の職員全体研修、勉強会の他、外部研修への参加の機会を設け、ケア向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内をはじめ、町外の事業者との情報交換のネットワークを図ると共に、法人内の各事業所の職員全体で行う研修に参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の見学時、本人や家族から要望等については聞き出せるように努めている。また、入所後は会話や生活状況等からどんな思いがあるのか把握し、不安のない生活が送れるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の見学や相談時、現在の状況をもとに、家族の要望等について相談に応じている。入所後は生活状況など随時報告しながら関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所相談時に、今受けているサービス等について確認し、当苑入所まで担当ケアマネがいれば、今後のサービス検討を一緒にさせてもらっている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭の延長の生活ということを中心に、入所の方と一緒に食器洗いや洗濯物干し、畑や花壇の作業などできるだけ行っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	機会があれば、家族と外出や自宅への外泊をお願いする。面会時は生活状況などをお話し、場合によっては職員から家族へ相談させてもらうなど互いに支えていけるようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしていた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前にお付き合いのあった近所の方々の面会を大切にし、また、お寺の定例法座や馴染みのある商店への買い物、美容室など出来る限り行っている。先日は本人、家族の希望で、13回忌法要を苑内で行ったこともある。	利用開始前の生活環境を大切にし、友人の訪問も多く、家族の協力で主治医の受診、老人クラブとの交流、馴染みの理容院の継続利用など、以前の関係が継続できるよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入所の方々が日常、ゲームや畑作業等がみんなと一緒に出来るように時間を確保している。また、心身の状況によって変化があるような時は、職員や他の入所の方が訪室し声かけ見守りしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院で契約終了しても、状況を確認しながら、再入所や他施設等の検討など相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各職員が日常生活の会話や行動等から、本人の希望や意向が把握できるように努めている。	基本のアセスメントシートで情報を収集し、状況把握に努めています。利用者の細かな行動や気付きを大切に日々の計画に反映しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の面談などで、家族、本人から出来るだけ情報を得るようにしている。また、入所後も会話の中で聞き取れるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員が日々の生活の中で、一人ひとりの生活リズムを把握し、言動や病状等の小さな変化でも検討できるようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活での状況をもとに、担当職員がアセスメント、モニタリングを行い、ケース会議等で全職員でケース検討する。	家族の意向を尊重し、利用者本位の介護計画を作成しています。毎月の会議ではモニタリング・評価・見直しを行い、現状に即した介護計画を作成しています。	介護計画の目標に対して、連動する記録の仕組みがなく、効果的に評価ができる記載方法の検討が望まれます。気付きや意見を出し合い、現状に即した目標を立て、利用者と職員が共有することで、利用者本位の意識付けになるよう期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活状況は、個々のケース記録に記入し、食事や排泄、パイル等の健康管理票として、個別に記録し状況を全職員間で把握できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望等があれば、本人、家族に代わって市町村等との事務手続き、病院などとの連携や必要に応じての通院対応等行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	直接的には少ないが、社会福祉協議会職員の交流会や老人クラブのバスハイク等の行事に参加する。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院の他、かかりつけの病院など、本人、家族の希望する病院へ受診できます。また、通院等は家族の意見や協力を得ながら行っています。	入居前の主治医を継続し、家族の協力や職員が付き添っての受診で健康管理が行われています。ホーム内では、看護職員により健康観察も行われています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	全職員が苑内勤務の看護婦と、日々の健康状態について情報を共有している。特変時は24時間対応できる体制で、その他協力病院とも随時連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は出来るだけ本人が安心して治療できるように、看護婦や職員が向き本人の他、病院職員と病状について情報確認している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に看取りの指針について、説明、同意をいただいているが、現在まで該当ケースはない。しかし基本理念であるビハラー活動（生老病死）について職員研修等で学んでいる。	重度化や終末期に向けた指針・方針を整備しています。同法人には特別養護老人ホームもあり、重度化した場合は、入所も考慮し、家族と十分に検討できる体制となっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員がAED普通救命講習を受講し、また、勉強会等でも急変時の対応方法等について学ぶ機会を設けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間防災計画を策定し、消防署や町内会の協力を得て、年2回夜間・日中想定避難訓練を実施している。	スプリンクラー・緊急通報システムの設置や避難訓練、各種研修も継続しています。運営推進会議では地域協力の話し合いや対応方法についても確立しています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	身体拘束委員会で常に検討しながら、各職員が意識し、また、お互いに注意し合うようにしている。	職員は、利用者の尊厳を損ねない言葉遣いや、プライバシーの確保、人格を尊重したケアに努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で自らの希望等を確認し、支障がない限り自分で決めてもらい意見等を尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事等の時間設定はあるが、その他は一人ひとりの生活状況に合わせて過ごしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族に協力を得て衣類等を替える他、希望があれば化粧品や服の購入のため、買い物に職員が同行する。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器は今まで個々に使っていた物を持参いただいている。入所の方には食後の片付け、洗い物を手伝ってもらっています。	献立は法人本体の栄養士が立て、食材をホームで調理しています。外食や行事食、外でバーベキュー等、食事を楽しむ変化も付けています。	現在は調理担当の職員のみが、一緒に同じ食事をしていますが、自力で食事ができる利用者も多いことから、ホームの特性を踏まえて、利用者と一緒に食事を楽しめる体制作りを期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取については毎日記録し、状況について職員間で共有している。摂取困難な場合は職員間で提供方法等を検討し対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状況に応じて、毎食後声かけや介助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別の排泄チェック表を記入し、排泄間隔や状況を把握しながら、トイレ誘導している。状況によってはオムツ使用の方もいるが、同様にできるだけトイレ誘導している。	自立した利用者も多く、トイレ排泄を基本に排泄パターンを把握し、タイミングを図りながら、声かけ誘導により、利用者の自立に向けた支援を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の生活の中で食事の他、水分摂取量の確認や、レクリエーション等の軽運動に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回の入浴日の他、希望に沿って入浴できるようにしている。特に夏場は畑作業後など気軽にシャワー浴が出来るように声かけし実施してきた。	週3回入浴日を設定していますが、身体状況や菜園作業後の入浴にも適宜対応しています。就寝前の対応についても、要望に応えられる体制となっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の身体状況や生活習慣に合わせて、自室などで安心して休めるように対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が薬の内容について理解し、誤薬がないように毎食確実に本人へ手渡し飲み込みまで確認する。また、仕分けは看護婦が行う。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	七夕まつりなどの年間行事の他、昔やってきた得意なことが生かせるように、畑作業や縫い物等をお願いし、少しでも生き甲斐のあるよう務めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物等は本人の希望に出来るだけ沿って実施している。また、美容室、床屋は職員対応の他、家族や地域の業者が直接送迎対応してくれる。	戸外でラジオ体操、庭の散策、化粧品や嗜好品の買い物等、日常的に外出の機会を作っています。花壇作りや野菜作りでは作業に関わり、収穫した野菜を食卓に盛り込み食事の楽しみとしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族、本人から要望があれば、預かり金制度で管理を行い、希望等があれば必要に応じて手続きを行い、小遣いとして本人に渡しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が自由に直接電話かけることができ、状況によっては職員が代行することもある。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた手作りの飾りつけをしています。また、出来るだけ家庭の雰囲気や匂いを大切に出来るように努めています。	広々と明るい玄関の両側に、各ユニットが広がり、リビングの吹き抜けや落ち着ける家具配置をしています。採光、室温や湿度も調整され、季節に応じた手作りの飾りで、心地良く過ごせる憩いの場となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の居間には、テレビやソファを用意し、入所者同士が思い思いに過ごせるようにしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前に、自宅で使用されていた馴染みのある家具類を準備いただけるようお願いする。配置については、家族、本人に自由に決めてもらっています。	洗面台・トイレが設置され、落ち着いた広い居室となっています。各部屋の大きさや作りも違い、個性を活かした家具の配置、装飾で居心地良く過ごせる工夫をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	開設時から手すりの設置、床はタイルカーペットや段差がないつくりになっている。また、個々の状況に応じて、介護用品の利用等を行っている。		